



Life field of Creation

## 概念デザインセミナー ; エッセイ

大谷翔平選手の凄さを概念分析してみると…

Ohtanisan! の強さには確固たる理由があった!

---

---

2021年度版 文責 概念デザイン研究所 山口泰幸

Email [taizan@gainendesign.com](mailto:taizan@gainendesign.com) HP <http://www.gainendesign.com/>  
Profile <http://www.gainendesign.com/Oid/taizan.html>

Copyright © 2021by Yamaguchi Taikoh @gainendesign.com 許可なく複製を禁じます。

大谷翔平選手がアメリカのメジャーリーグで大活躍中です。野球の歴史を大転換させるだけのパワーを秘めた『救世主』とも言われる日本の若者の活躍に、日々ワクワクドキドキしている人は日本人に限らず、世界中にいることでしょう。

さて、ご本人に関する野球に関わる話題は、ネットニュースやユーチューブで日々参照できますので、ここでは、概念デザイン研究所らしく、彼の基本戦略の概念構造が一体どうなっているのかについて考察してみます。

トップクラスのピッチャーであり、同時にバッターという2刀流については言うまでも無く、彼が礼儀正しい好青年であることもアメリカのメディアは頻繁に紹介します。例えば、「球場に落ちているゴミを拾う」、「死球相手には帽子をとって会釈する」、「審判を尊重し挨拶をする」、「常にどんな場面でも全力である」…などなどの驚きにも似た高評価が現地メディアには踊っています。そしてもしかしたら彼は『宇宙人なのではないか』とも。

大谷翔平選手がプロ野球界の常識をどんでん返ししてしまうほどのパワーを秘めているのは一体何故なのでしょう。それを概念分析しながら論理的に追って見たいと思います。

大谷選手が身長2m近い日本人離れした体格の持ち主であり、そのことが彼をスーパーマンにしている一因にもなっていることは言うまでもありませんが、私が最も重要だと気がついたのは、彼が「目標達成シート」という壮大で戦略的な概念マップを保有し、かつそれを公表しているところです。

詳細は後述しますが、その「目標達成シート」というのはコンセプトの分類上ではマンダラチャートと呼ばれるもので、その概念を踏まえているのかどうかについては詳しい言及はありませんが、私の知見ではその基本計画の概念構造は明らかにマンダラチャートに基づいているものと判断でき、幼い頃に何らかのかたちで修得し、自分流の「戦略的基本計画」を確立したモノではないかと推察できます。伝聞に拠れば高1時代だとか…ウーム！

マンダラチャートは、1979年にクローバ経営研究所の松村寧雄氏によって開発された方法論ですが、私が実際にこれを使っている事例に触れたのは1997年でした。京都の編集工房を主宰していた清水輝久氏からいくつかの曼荼羅図を見せられました。それを若い大谷少年が使いこなしてきていることに驚かされます。

マンダラチャートは概念デザインメソドロジーにおける分類では124CP（コンセプト・パッケージ）に相当します。彼の世界観がどのように構成されているのかについて、以下述べたいと思います。



- 1 コンセプト・パッケージとは何か；再掲  
(『概念デザインメソドロジーの深化と実践によるデザイン力の向上』を参照)
- 2 空間の概念構造と123CP法について；再掲  
(『概念デザインメソドロジーの深化と実践によるデザイン力の向上』を参照)
- 3 大谷翔平選手の基本戦略「目標達成シート」
  - ※密教の曼荼羅図が基盤になっている『曼荼羅チャートまたはマンダラート』方式
  - ※曼荼羅図を使った別の事例
  - ※曼荼羅図は概念デザインメソドロジーにおける『12NCP法』の一環で考察できる
- 4 大谷翔平選手の基本戦略をCPで概念分析する
  - ※これがスーパーマンのCP
  - ※大谷選手の目標達成シートの概念構造の基本
  - ※大谷選手の基本戦略の概念構造は『125CP』！
- 5 大谷翔平選手がスーパーマンである論拠
  - ※概念構造の完全体ともいえる思想基盤と行動指針をCPとして確立して保持している
  - ※それを支えるメンタル力と実行力が隠し技として体現できている
  - ※細部のソリューション群に他を引き離す要素が隠されている
  - ※彼が確立し実行しているその概念構造は周囲に伝搬し継承されて、世界観を変えうる
  - ※大谷翔平選手がスーパーマンであり続けるための重要な注意点



## 1 コンセプト・パッケージの位置づけ

茫洋たる思考の枠組みである「概念」を認識するのはなかなか容易ではない。複雑に混融した「概念」の認識や伝達は言葉化されることによって可能となる。言葉化の最も簡略なものは“今年を表す漢字”になるだろう。逆に「概念」について論述を尽くして数千文字で表明する場合もある。「概念」を構造化し、言葉と構造と図示によって明瞭・簡潔に把握、表明・伝達するデザインツールがコンセプト・パッケージになる。コンセプト・パッケージとは概念構造化仮説であり、これを提議することによって自他作品の評価・分析を可能とし、効果的で効率的なデザイン提案が可能となる。

コンセプト・パッケージには2つの側面がある。ひとつは概念構造を論理的に詳説するためのダイアグラムでこれを概念図；コンセプチュアル・ダイアグラム（図2）という。もうひとつは概念構造全体をグラフィック・デザインとして美的観点から昇華したもので、これを概念表象；コンセプチュアル・シンボル（図3）という。

## 2 コンセプト・パッケージの構成要素

コンセプト・パッケージの構成要素は、優先順位の高い順に、「コア・コンセプト」、「複数の軸」、「複数の柱」、「各柱に付随したソリューション群」となり、「コア・コンセプト」を補強する説明文として「キャッチコピー」がセットで配置されるが、これはどの時点で付記しても良い。

コンセプト・パッケージは“家作り”と似ている。前段階の観相領域が基礎・土台になり、その上に大黒柱としてのコア・コンセプトが立てられる。コア・コンセプトは抽象度の高い価値提案の文言になる。軸は家の構造設計にあたる。軸は建築の様式・材料・工法や手順などを決定する極めて重要な指針となる。軸の設定はコア・コンセプトの実現化戦略のキーポイントになる。柱は切口ともいい、中抽象度の具体的な実行化手段を示す。さらに、柱群に付随するソリューション群は、高具象度の具体的実現手段となる。

このように、コンセプト・パッケージには抽象度の高いものから具象度の高いものまで、複数の文言が複雑多岐にわたって、しかし整然と配置された言葉の集合体であると同時に、立体的な構造を持つひとつの塊ということになる。コンセプト・パッケージの説明や図版は2次元的になるが、その本質は3次元立体のいわば“概念球 (Conceptual Globe)”で、コンセプト・パッケージは言述であるというよりも、立体構造メディアと呼べる。

## 3 コンセプト・パッケージこそが「真のコンセプト」

「コンセプト」という表現自体が巷に溢れ、簡潔な文字や文章が錯綜しているので、ここであらためて指摘しておきたい。「コンセプト」とはある対象の概念の総体を表明する媒体であるので、本来それは複雑多岐な内部構造を有する実体で、一言で言い得るものではない。概念構造化仮説としてのコンセプト・パッケージこそが「真のコンセプト」であるとの認識が必要である。そのようにコンセプト・パッケージをハンドリングできないと、抽象度の高い世界から具象度の高い世界までを幅広く引き受けるデザイナーには、優れたコンセプトおよび優れた作品を創造することがたいへん難しい作業となるだろう。



## 1 123CP法

123CPとは1つのコア・コンセプト、上下2相および3軸の構成による特別なコンセプト・パッケージ（CP；Concept Package）を意味する。コンセプト・パッケージは2次元上に示されているが、上下2相の区分によって、基本3軸の上下において該当する軸上の対極的柱が設定される。これは対立関係ではない。おなじ軸上で例えば「表・裏」、「外面・内面」、「公・私」などの対極的な関係を示している。プロダクトデザインやグラフィック・デザインなどの軸構成ではこうした空間論を基本的には適用しない、あるいはできないケースもあるので注意を要する。空間関係以外の概念構造の検証ではまた異なった軸構成や軸数が存在するので、こうした事例検証はあらためて別の機会に論究してみたい。

## 2 空間の概念構造における123CP法

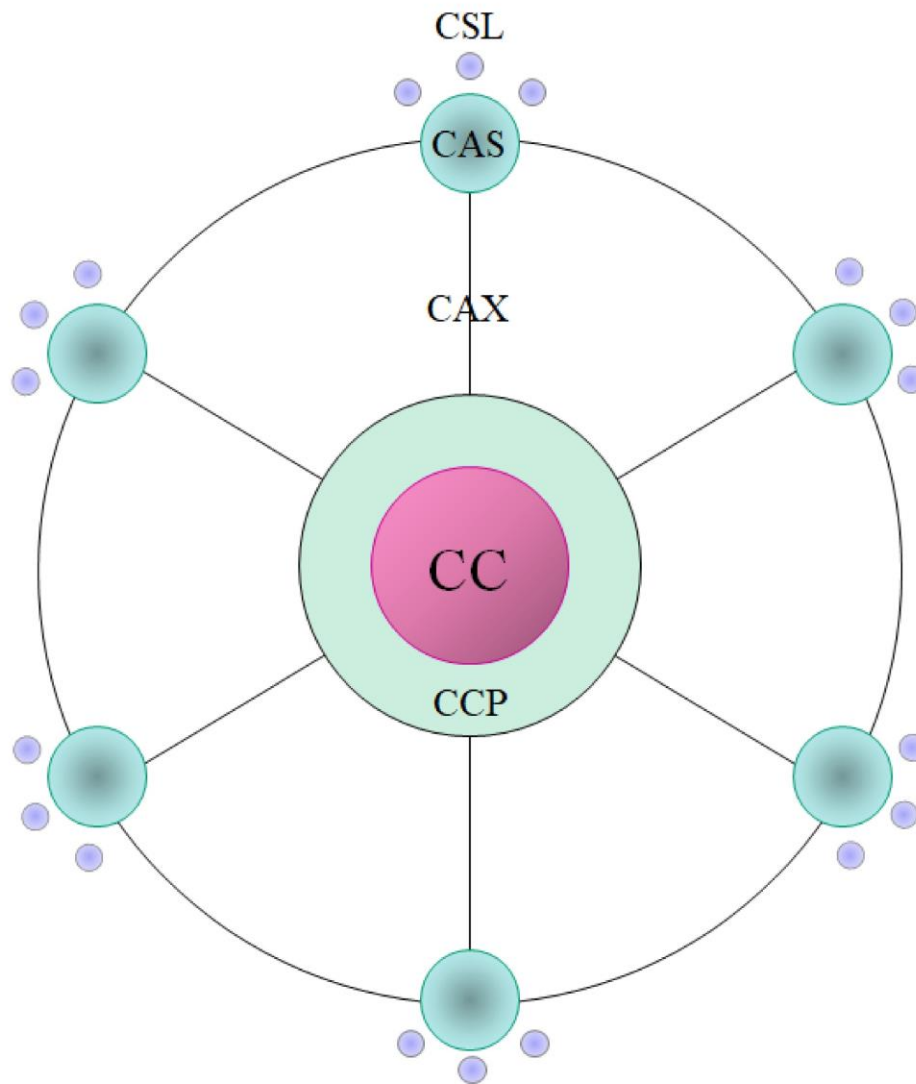
デザインにおける空間概念の認識には図4のような3つの軸設定が適している。それはデザインとは畢竟、空間をいかにトータルで認識するのかという認識論に帰着するからだと筆者は考える。なお、コンセプト・パッケージの表明には2つの方向性があり、一つは論理的な説明図であるコンセプト・ダイアグラム、もう一方は審美性を問うグラフィックスとしてのコンセプトチュアル・シンボルである。図4はコンセプト・ダイアグラム性を完全に入れ込んだ形でのコンセプトチュアル・シンボルに相等する。コンセプトチュアル・シンボルの場合にはあくまでもグラフィック・デザインとして感性に訴求するものになるので、解説性をやや割愛しデフォルメされたものでもよい。

図5に123CP法の概念構造、図6に“概念球（Conceptual Globe）”のイメージ・イラストを示した。

詳報；「概念デザインメソドロジーの深化と実践；コンセプト・パッケージ法による圧倒的デザイン能力の向上」

<http://www.gainendesign.com/gainendesignmethodology-brush-up-by-CP.pdf>



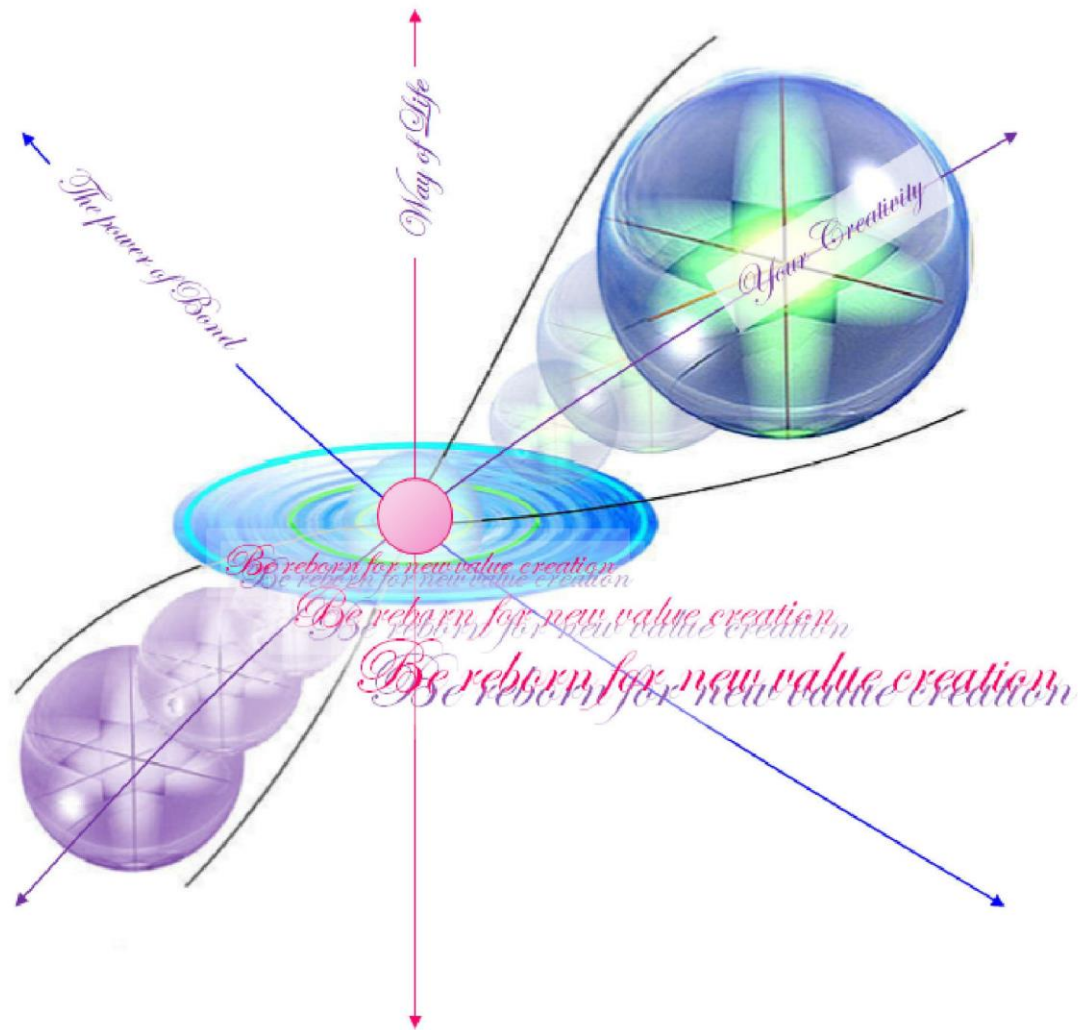


CC =Core Concept  
CCP=Catch Copy  
CAX=Conceptual Axes  
CAS=Conceptual Aspects  
CSL=Conceptual Solutions

Copyright © Yamaguchi Taikoh 2020



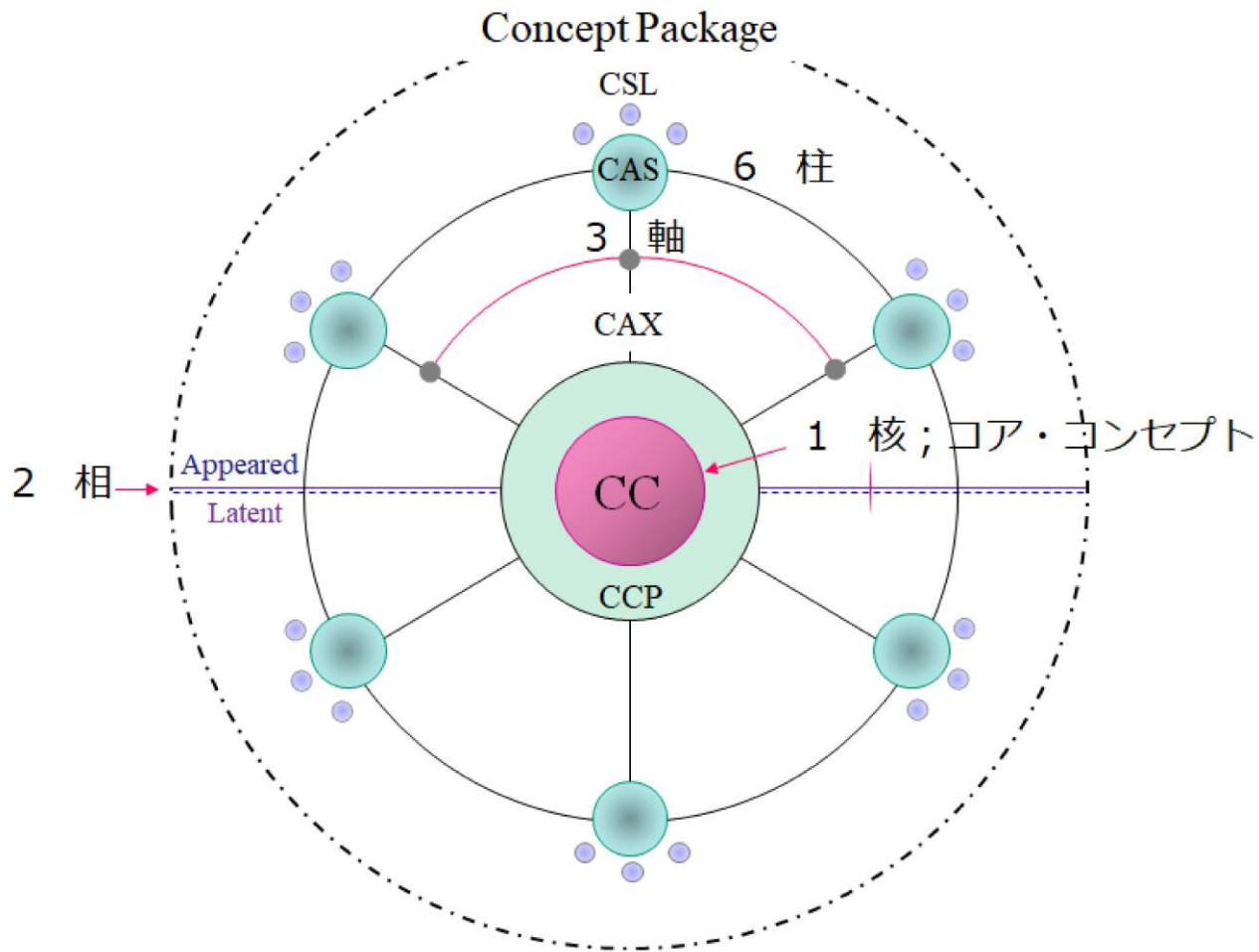
Conceptual Symbol of New Normal World



Copyright © Yamaguchi Taikoh 2020



### 123CP (コンセプト・パッケージ) 法の概念構造

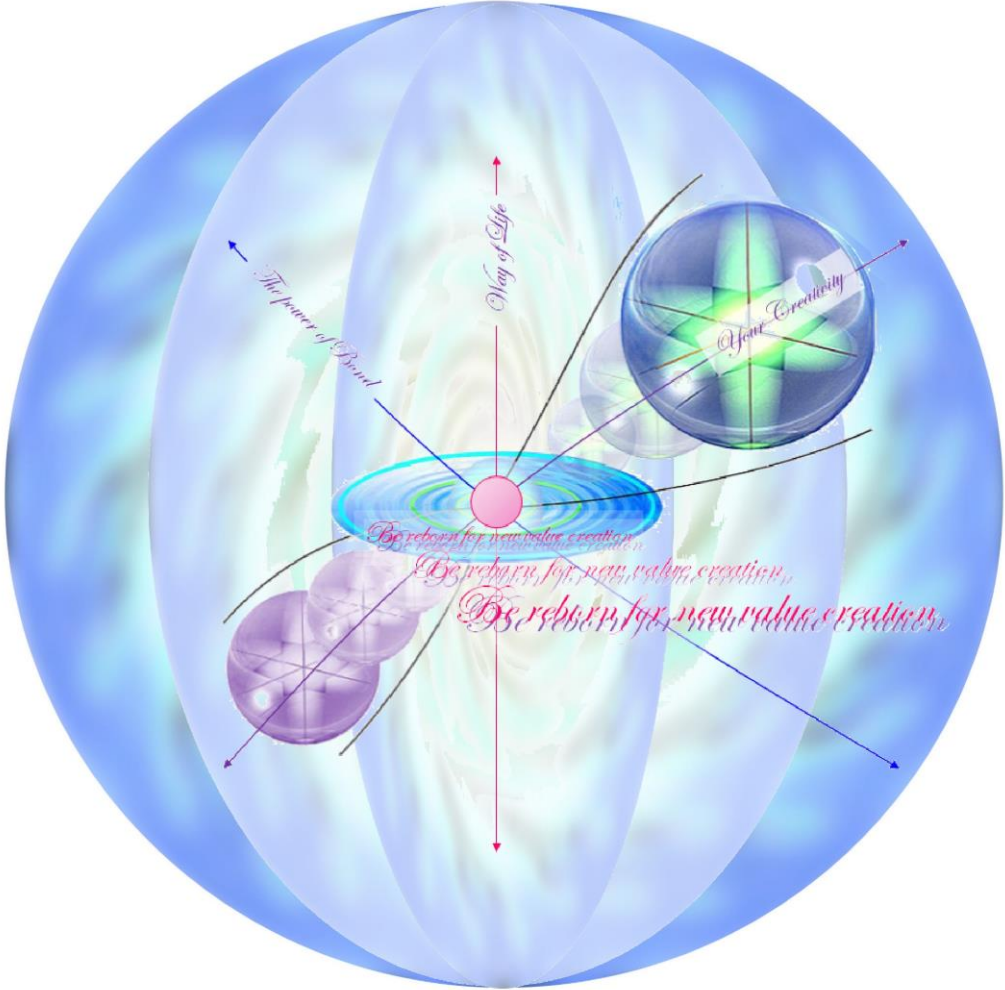


Copyright © Yamaguchi Taikoh 2020





Conceptual Globe のイメージイラスト



Copyright © Yamaguchi Taikoh 2020



※密教の曼荼羅図が基盤になっている『曼荼羅チャートまたはマングラート』方式

- ◎曼荼羅とは密教で用いられる仏画であって、「胎蔵界曼荼羅」と「金剛界曼荼羅」がある。
- ◎2つ合わせて両界曼荼羅と称せられ、中心に大日如来が座す。
- ◎中心から上下左右、斜め左右に合計8つの領域があり、それぞれの中心に仏が座す。
- ◎さらに各8つの仏の周囲に同様に複数の仏が配置される。
- ◎概念デザインメソドロジーにおける概念構造化仮説では
  - コア・コンセプト ⇒大日如来
  - 複数の柱群 ⇒8つの周囲の仏
  - 複数のソリューション群 ⇒各8つの仏の周囲の仏群

が対応する。さらにこれに、4本の軸および表象・潜象の二相の構造区分が組み合わされる。ゆえに、概念デザインメソドロジーにおいて曼荼羅図を扱う時には「124CP法」を適用することになる。また後述するように、大谷選手の「目標達成シート」という曼荼羅図を詳細に分析し、かつ背景に潜んでいる次元を掘り起こすと、実際には「125CP」となり、実は大谷選手が運用しているのは、5軸を有する目標達成シートになっている。

※曼荼羅図を使った別の事例

先述した京都編集工房の主宰者である故清水輝久氏から1997年に頂いた曼荼羅チャートの一例を図で示す。この事例では「京都のアイデンティティ構想」がテーマの曼荼羅図で、中心概念であるコア・コンセプトは「健康都市京都」となっている。また周囲に配置された柱群は「学術」、「会議」、「宗教」、「歴史」、「国際」、「産業」、「風流」、「文化」の8つである。

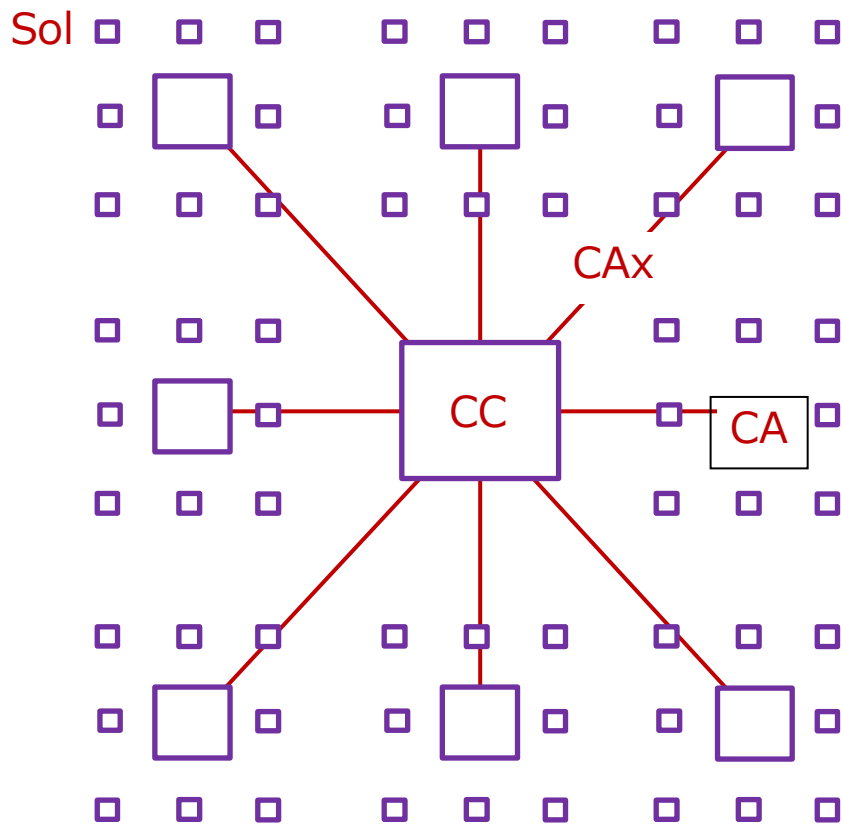
※曼荼羅図は概念デザインメソドロジーにおける『12NCP法』の一環で考察できる。(N=2以上)

厳密に言えば、「大谷選手の基本目標達成シート」は「12NCP法」；1コア、2相、多元軸（4以上）の一環であるといえる。ただし、これはテキストとして表象されている「目標達成シート」からのみ読み取れるものではなく、日頃の大谷選手の言動や思考から解読した不可視な第5軸を組み合わせたものになる。



### 曼荼羅チャートの概念構造図

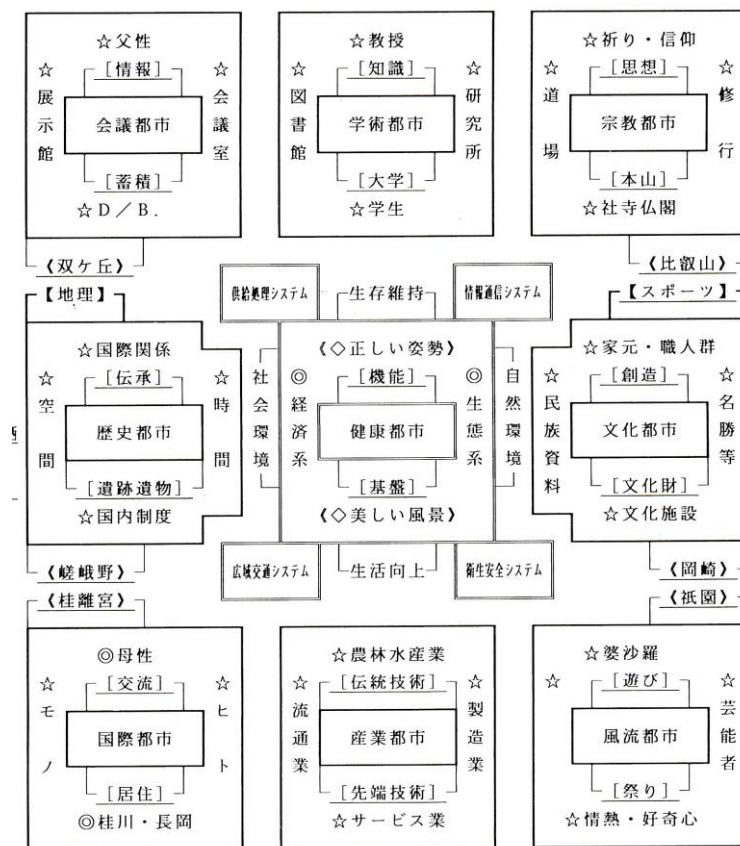
赤色は概念デザインメソドロジーによる付記部分



1CC-4Cax-8CA-8Csolのコンセプト・パッケージ

### 曼荼羅チャートの事例図

京都のアイデンティティ構想  
By編集工房 故清水輝久氏1997

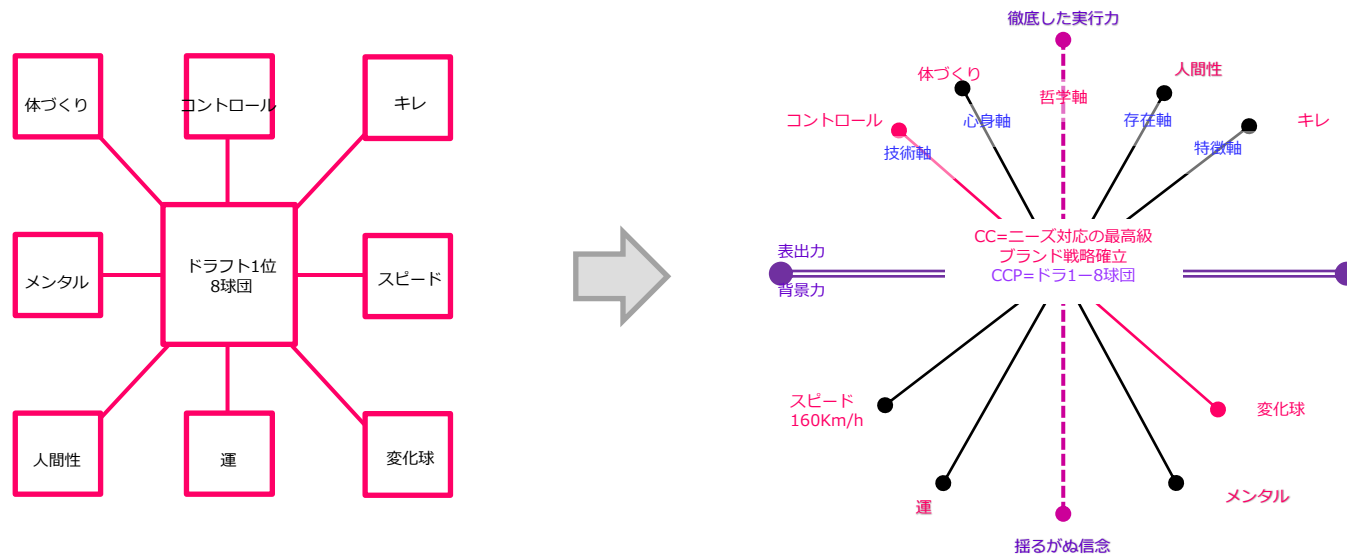


1CC-0Cax-8CA-4Csolのコンセプト・パッケージ



※これがスーパーマンのCP

大谷選手の曼荼羅図としての「目標達成シート」を概念デザインメソドロジーで概念分析すると『125CP』が形成される。下の図がその概要で詳細図は次ページに掲載する。



※『125CP』の意味するところ

5軸目が背景から読み取れるモノとして組み入れられ、かつ各軸に名称がつくのと、また表出力と背景力との2相配置がなされるために、原本の「目標達成シート」の掲載順が変わってくる。

概念デザインメソドロジーではこのように大谷翔平選手が保持し、実行している戦略のコンセプト・パッケージは『125CP』になるのである。

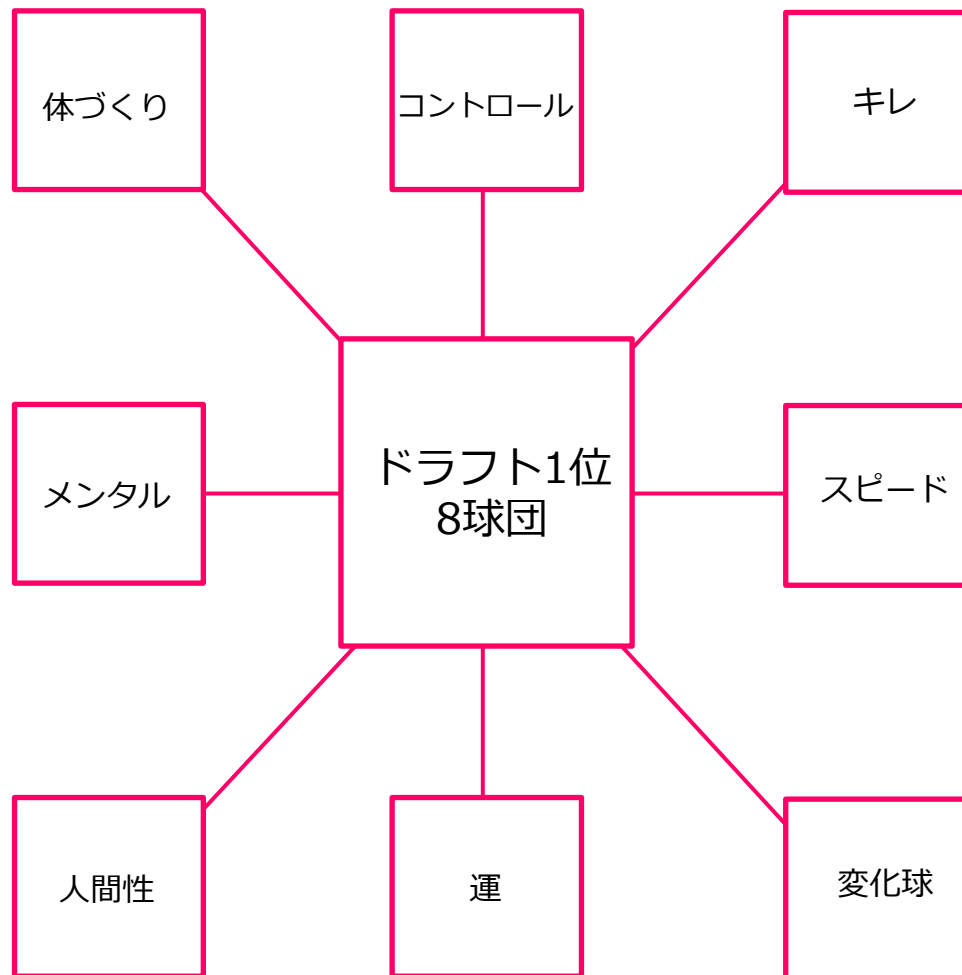
通常CPは123CPで語られれば十分であるが、124になればその品質や効力は格段に上昇する。さらに125となり5軸を有するCPはもはや神の領域で、滅多に出現しないCPである。

そういう意味では大谷選手の戦略と実行による実績とは既に神領域にあるので、これを凌駕することは極めて難しい。

特に大谷選手の凄いところは、第5軸目の「哲学軸」を持っているところで、これは表面上には出てこないが、この軸を持ち実行化する揺るがぬ気持ちりが彼を特別な領域へと高めていることは間違いない。

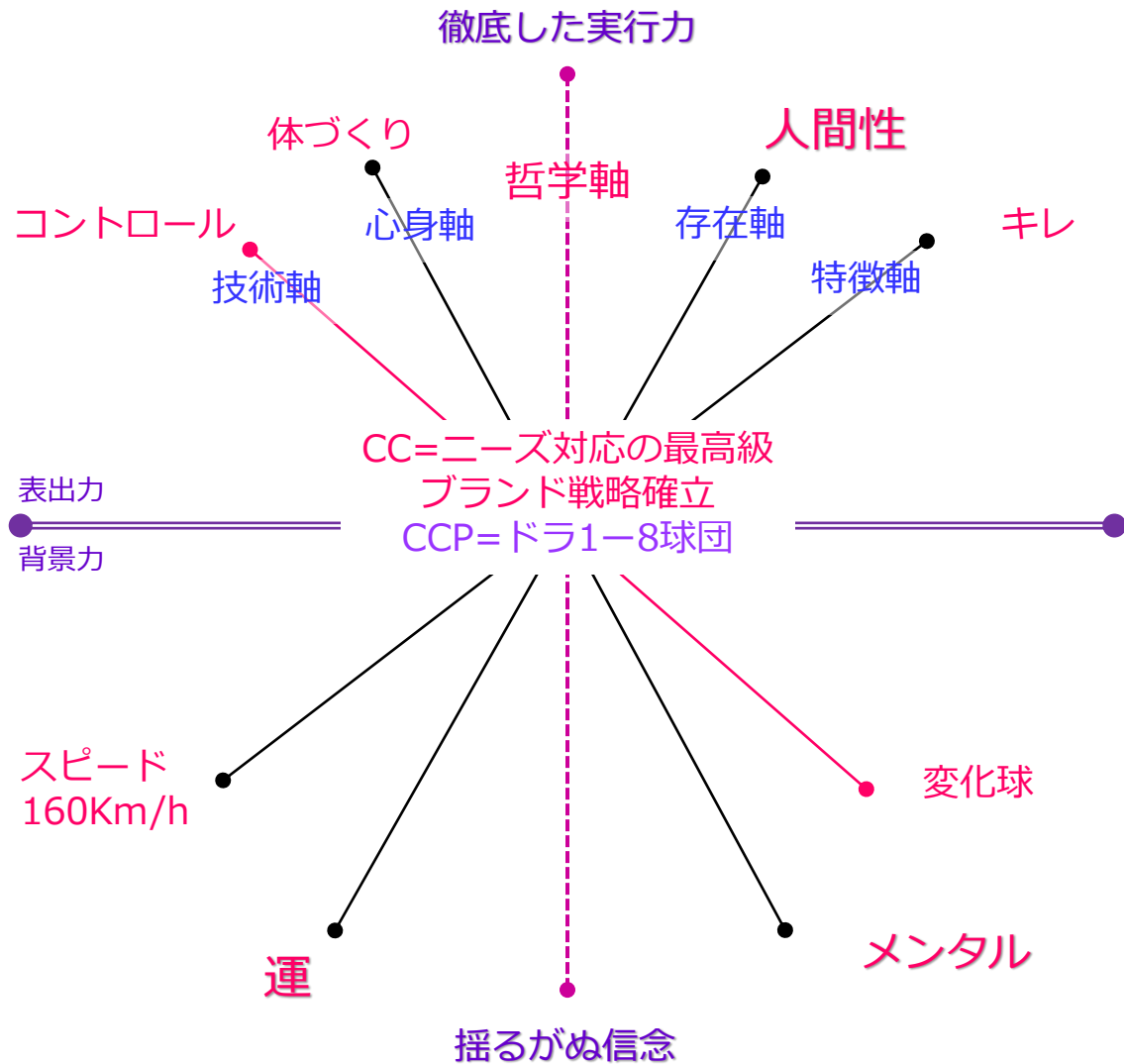


大谷選手が掲げる曼荼羅チャートとしての目標達成シート  
 ※中心概念のコア・コンセプトと8つの柱群



この完璧さと実行力が大谷選手を異次元に引き上げている！

**実際には5軸10柱**



1CC-5Cax-8Csolの『125CP』が形成されている



※概念構造の完全体ともいえる思想基盤と行動指針をCPとして確立して保持している

大谷選手の目標達成シートは曼荼羅としてはもちろんのこと、概念デザインの的にも『125CP』体として神領域とも言える完全体であるため、極めて強固なコンセプトを保持しているため。

※それを支えるゆるがぬ信念と実行力とが隠し技

隠れ軸としての哲学軸が実は存在し、それを「実行力」と「信念」とが支えているため。このストイックさは、彼の前世の記憶にでもあるのかもしれない。

※細部のソリューション群に他を引き離す要素が隠されている

「ゴミを拾う」、「礼儀正しく振る舞う」、「道具を大切に使う」というような日本人的には当たり前の礼節が、アメリカでは奇異にも近いが好意的な感触で受け入れられ、賞賛されている。そして現地の評価では彼は「優しい人間」、「良い人間」、「誰にでも愛される好青年」と情感的に語られる。しかしその源流はかれの基本戦略である目標達成シートの『125CP』で分かるように、そのコア・コンセプトまで遡れる具体的で緻密な戦略の流れがあり、同時に個々のソリューションに意味がある。

※彼が確立し実行している当該概念構造は周囲に伝搬し継承されて、世界観を変える⇒Ohtani Concept!

例えば「ゴミを拾う」ことが球場の安全に繋がり、ひいては「選手のケガを減らす」ことに繋がることを理解できれば、少なくとも彼の同僚や後輩はその思考や行動を継承するに違いない。そしてやがてそれは流れとなって球界に変化を巻き起こすことになるだろう。かれが球界の救世主とゆわれる所以がそういうところにあるのかもしれない。

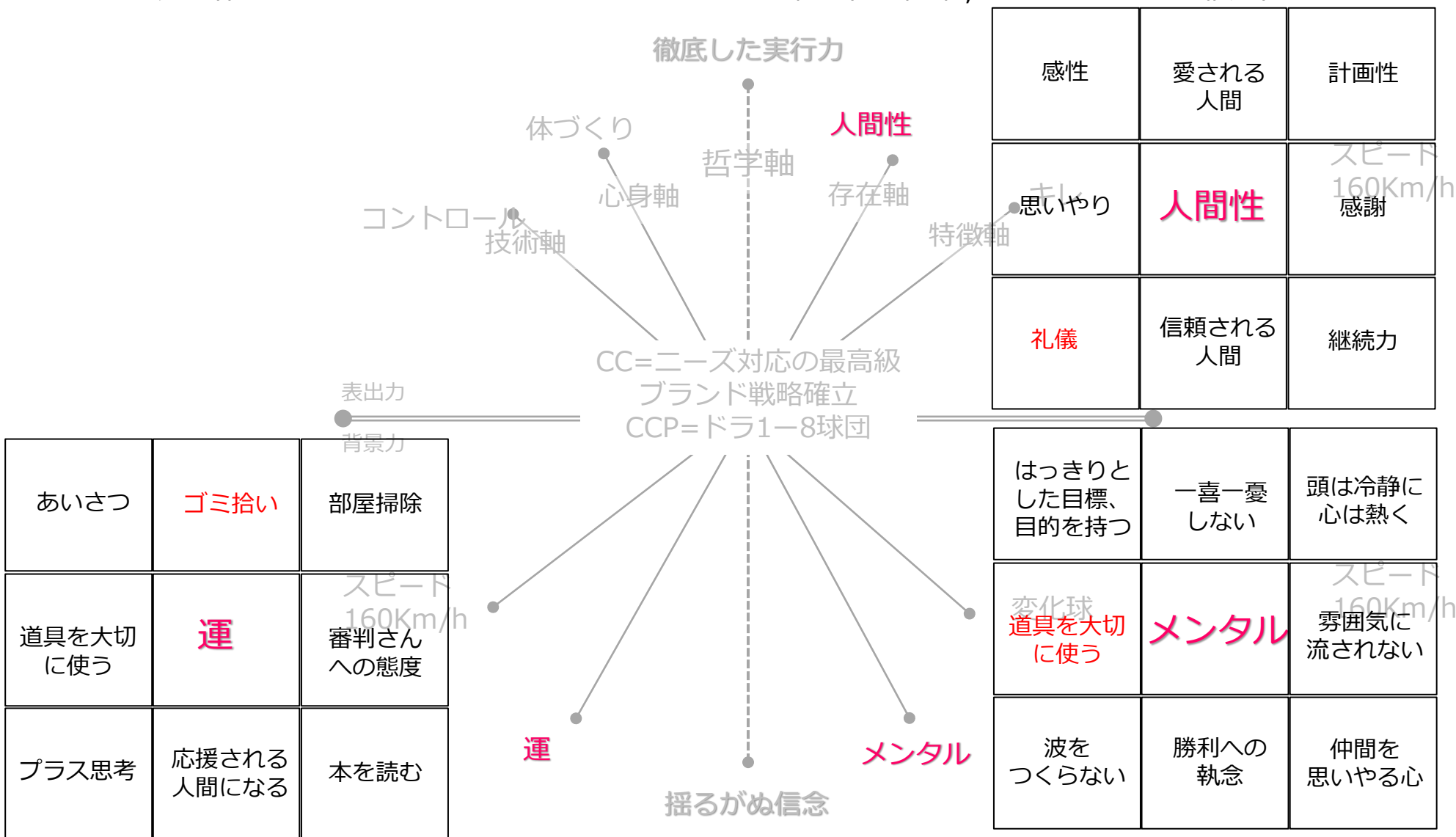
※大谷翔平選手がスーパーマンであり続けるための重要な注意点

1番はケガをしないこと、2番は大切な基本戦略とその実行を継続すること…位なところであろうか。



それらの細部にこそ神が宿っている！

…しかも完全体としての125CPにおいてコア・コンセプト—軸—柱と細部；ソリューションが構造化されている！



1CC-5Cax-8Csolの『125CP』が形成されている





## 参考資料

## ※インターネット上の検索データ

- Yahoo、Google等の検索エンジン
- Wikipedia
- Youtube

## ※概念デザイン研究所の各種資料

- 概念デザイン研究所ホームページ  
<http://www.gainendesign.com/>
- 「概念デザインメソドロジーの深化と実践；コンセプト・パッケージ法による圧倒的デザイン能力の向上」  
<http://www.gainendesign.com/gainendesignmethodology-brush-up-by-CP.pdf>

## 注意書き

- ※ 本論説は著作権および商標権により守られていますのでお取り扱いにご注意下さい。
  - ※ 本論説pdf版はダウンロードおよび印刷は可能とします。ただしデータの改変・2次使用は、ご遠慮下さい。
  - ※ 本論説のコンテンツの利用をお考えの場合にはメールにてその旨をご連絡下さい。メール宛先；[taizan@gainendesign.com](mailto:taizan@gainendesign.com)
  - ※ 概念デザイン全般についてご質問がありましたらお気軽にその旨をご連絡下さい。メール宛先；[taizan@gainendesign.com](mailto:taizan@gainendesign.com)
  - ※ 概念デザイン研究所のホームページに概念デザイン関係の理論や方法論、資料が掲載されています。  
<http://www.gainendesign.com>
- ◎ 概念デザインの定義；概念デザイン研究所における公式な表明  
『取り巻く環境総体を総合的に認識し、カタチを生み出す潜在構造 およびカタチの創造を通じて、思想の発信、技術の牽引を戦略的かつ実践的に展開すること。そしてその一連の行為は調和的で生命感に溢れ、中心に魂が存在するもの。』

